

**登米市（仮称）地域交流センター整備基本設計及び実施設計業務
公募型プロポーザル審査委員会 総評**

本プロポーザルは、令和7年3月に策定された図書館・保健センター・迫公民館・市役所本庁機能などで構成する複合施設整備にかかる「基本構想及び基本計画」に続き、「基本設計及び実施設計」の業務発注にかかる優先交渉者を選定するもので、令和7年10月4日、一次審査を通過した応募3社によるプレゼンテーションが社名等を伏せて実施され、外部委員として学識経験者4名、庁内委員として関係部長4名の計8名の委員による提案審査が行われました。

冒頭、熊谷康信市長から委嘱状交付及び挨拶があり、本年4月に行われた市長選挙における選挙公約で、施設整備の計画を白紙撤回としていることを踏まえ、本事業においては価値創出だけでなく、コスト、防災、十分な駐車場等をはじめとした様々な課題解決が重要である旨が伝えられました。

提案審査は、各社毎にプレゼンテーション、質疑応答を実施し、その内容により各委員が採点を行い、全社の採点が終了後、事務局の集計により最優秀提案者並びに優秀提案者を決定しました。

今回、惜しくも選外となった提案は、交流をはかる空間装置として「エンガワ」や「雁行配置」を設け、登米市らしさを考慮した外観意匠など魅力ある提案が随所に見られましたが、限られた工期の中で課題解決を進めるプロセスや体制、コスト管理などの点に疑問が寄せられました。

一方、最優秀提案並びに優秀提案の2つの提案は評価点が僅差となり、評価は困難を極めました。このうち、次点となった優秀提案は、東の都市公園と西の大駐車場のあいだに図書館及び公民館機能を挿入して交流を喚起する「まなびの南北軸」と、バスターミナルを商業施設に近い敷地東に置いて本庁舎にいざなう「くらしの東西軸」を直交させる案で、全体として高い評価がなされましたが、建築面積がやや大きくコスト的な不安を与えたこと、バスターミナル配置への賛否など、幾つかの指摘も寄せられました。

これに対し、最優秀提案は業務の方針や進め方を重視し、コスト面などの課題解決にかかる調整プロセス・体制を力説するなど、本事業が置かれた難局に寄り添う姿勢が評価されました。施設計画においても、管理運営面を考慮したゾーニングが明快で、諸機能が結びつく「コネクション・モール」、公園と大駐車場を分断せずにバスターミナルでつなぐなど、無理のない空間構成にも評価が寄せられました。

ただし、複合施設としての魅力や価値を創出する上で、その設えには工夫の余地があるなどの指摘もありました。

プロポーザル審査は、一般的に価格や数値で計りがたい総合力や取組姿勢を評価するものであり、それ故に外部委員が加わって多角的な議論を重ねるものであります。

今回の審査においては、諸般の事情からプロポーザルの手続きを一度中断し、再開するという異例の対応に迫られたため、外部委員と庁内委員、事務局との調整時間が限られ、結果として事務局が作成した評価要領等に基づく審査とならざるを得ないものとなりましたが、実現を目指し示されたこの提案は、必ずや尊重されるものと期待いたします。

最後に、無償でこのような素晴らしい提案を下さった3社の関係の皆様には心から敬意と感謝を申し上げ、ここに総評として報告させていただきます。

令和7年10月27日

公募型プロポーザル審査委員会
委員長 大沼 正寛